

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC30002
研究開発課題名:	介護対象者見守り支援サービスの事業化に向けた臥床者体動情報収集システムの開発
研究代表者(所属・役職・氏名)	自治医科大学 看護学部 准教授 川上勝

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

本プロジェクトでは、初めに認知症高齢者の安全確保およびケアスタッフの負担軽減のため、多機能・高性能な見守り支援機器を普及するためのビジネスモデルの妥当性を検討した。

次に、わが国の健康課題である睡眠不足に着目し、重要な社会インフラの一つである公共交通機関の安全向上に寄与するサービスを検討した。体調不良に起因する職業運転者の事故を撲滅するためには、客観的データに基づいた乗務前点呼が不可欠である。そこで、職業運転者の乗務前睡眠不足判定サービス提供のためのビジネスモデルを検証した。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

本プロジェクトにて当初設定した研究課題に基づき、起上り予測機能を備えた見守り支援機器をケア現場に提供するビジネスモデルを検証するため、認知症高齢者のケア施設の管理者やケア専門職へのヒアリングを実施した。高機能な見守り支援機器の必要性は確認できたが、現状の医療・介護報酬制度の枠組み内では新規装置の導入は非常に困難であることが明らかとなった。

そこで、臥床状態を把握する対象を認知症高齢者から職業運転者に変更し、義務付けられている乗務前体調確認を支援するビジネスモデルを検討した。想定顧客として運輸事業者と損害保険業者へのヒアリングを実施し、ニーズの確認ができた。実証実験実施に向けバス事業者との協議体制を構築した。

3. 総合所見

技術シーズの用途開発を広く実施し、当初の見守り支援サービスから、ドライバーの睡眠状態測定サービスへターゲット市場を大きく変化させ、よりニーズの高いビジネスモデルの構築した点、及びベンチャー企業を設立し、関連事業者との共同研究を実施している点を高く評価する。引き続き、高い目標に向けて事業を推進することを期待する。

以上